

(五) 去勢手術は効果は確實であるが脱落症を伴ふから第二項の條件に合致しない。

(六) X線照射は確實性、安全性共に相當の短所がある様である。

(七) 我國癩療養所に於ける千人以上の男性斷種即ち輸精管不妊法を實施した結果を調査した成績は次の通りである。

(イ) 合併症なきもの六五・六%、局所及び局所以外の合併症のあつたもの七・九八%、不詳二六・三二%。合併症は陰囊血腫、陰囊水腫、局所硬結、局所化膿等が主要なものである。

(ロ) 死亡、〇・一%

(ハ) 手術後妊娠を起せるもの〇・二九%、妊娠を起さざるもの七三・三八%、不詳二六・三二%

(ニ) 手術直後臥床を要せざりしもの四〇・七八%、一日内至三日臥床せるもの一一・四七%、四日以上臥床せるもの二二・四四%、不詳二六・三二%

(ホ) 手術後一般健康状態に變化なきもの六五・三〇%、増進せるもの二五・九%、低下せるもの五・七八%、不詳二六・三二%

(ヘ) 性欲増減なきもの五五・六三%、増強せるもの四・八五%、減退せるもの一三・一六%、不詳二六・三二%

(八) 癩療養所に於ける被手術者は重篤なる癩患に罹つて居て病勢は大體に於いて進行性に増悪しつゝあるを以つて手術の影響は當然顯著に存在すべきも尙前項に示す如く比較的輕微なるは以つて一般人に對する輸精管不妊法が極めて安全なるを推定することが出来る。又手術後妊娠を起せるものが〇・二九%にあつたのは手術自身に失敗があつた爲であつて、再手術によつて何れも完全に不妊となつて居るから效果確實な方法であ

ることも亦確認する事が出来る。

コルベールの人口増加策 (埋め草)

十七世紀重商主義の時代は何れの國も競つて人口の増加を計つた時代であるが、その標本的なものとして最も有名なのはコルベールの人口増加策である。この重なるものをあげると、其の一は移出民の制限及移入民の誘致で、移出民の制限の爲に一六八一年遂に違反者に死刑を課するに至つた。其の二は植民地の人口増加策で、之が爲多數の女子を送つて兵子をして結婚せしめた。其の三には (a) 宗教上の獨身を制限し、僧院の財産を制限し、(b) 獨身の最終誓言を爲し得る年齢を男子は二十五歳、女子は二十歳迄延長した。(尤も之は宗教家の反對の爲に實行出来なかつたと曰ふ)。其の四は一六六五年結婚の支度(持參金及物)を制限し、多數の子女を有する場合と雖も結婚せしむるに差支なき様にした。其の五は一六六六年コルベール法と呼ぶる法律を發して (a) 二十歳以前に結婚する者に對しては二十五歳迄或種の税を免除し、(b) 十人以上の子女を有する父に對し終生凡ての税金を免除した。尤もその子は全部生存して居るか又は戰爭に於て死したることを要し、且僧侶であつてはならない。(c) 子女十二人以上を有する貴族には二十リブル、十人以上を有する貴族には十リブルの年金を給する。尤もその子女は前號と同様の條件を具へて居なければならぬ。(d) 同様の條件を具ふる有産者には右の半額の年金を與へ、後一六六七年之を全國民に擴張した。(J. Spengler, France Races Depopulation より)